

映画の魅力を伝える！

架空（かくう）の映画のポスターをつくろう！

今回の課題では、架空（かくう）の映画の内容を考え、ポスターをデザインします。映画のポスターには、映画の内容や雰囲気（ふんいき）を一目で伝え、お客さんの興味や関心を引き出すという大切な役割があります。ポスターを見た人に「この映画を観てみたい！」と思わせるような、映画の魅力（みりょく）が伝わるデザインを目指しましょう。

【今月の課題】

- STEP1 架空（かくう）の映画の内容を考えよう！
- STEP2 映画の魅力（みりょく）を伝えるデザインを考えよう！
- STEP3 映画の魅力が伝わるポスターを完成させよう！



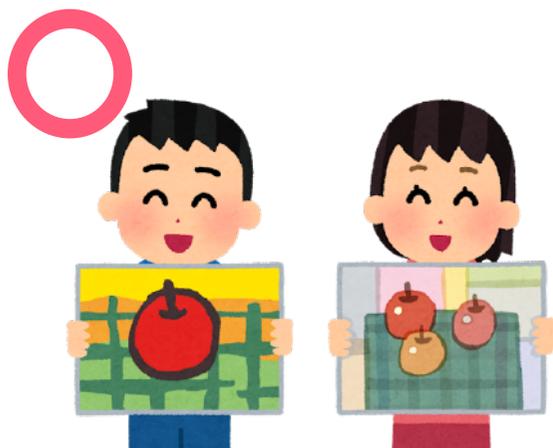
著作権を守ろう その1



著作権法という、作品の作者を守るための法律があります。

「漫画」「アニメ」「小説」などの、“誰かがすでに作ったキャラクターや世界観をもとにして描いたイラスト”は、作者（著作権の権利者）に無断で発表することができません。

また、だれかの絵をトレースして描いたものや、模写して描いたものを「自分で描きました」と発表することも、著作権法違反となります。



テーマやモチーフが同じ
構図などを真似ていない



盗作（模写）



盗作（改変・加工）

著作権を守ろう その2



著作権法をはじめとした社会のルールを守ることは、
自分を守ることにもつながります。

「インターネットで見つけた他の人が描いたイラストを、無断で自分の SNS のアイコンとして使用する」という例も、実は著作権法違反となります。有名な企業の名前で発表されている作品はもちろん、個人がインターネットに投稿したイラストにも、すべて著作権があります。みなさんが描いたイラストももちろん、著作権法で保護されているということになります。



私たち一人一人が著作権に対する意識を高く持つことは、アートやデザインの業界はもちろん、社会全体を守っていくことにも繋がります。「これくらいいいじゃないか」と思わず、作者の権利を守る意識を持ち、また、自分の作品の独自性にプライドを持ちましょう。

STEP1 架空（かくう）の映画の内容を考えよう！

ポスターをデザインするために、まずは映画の「テーマ」や「あらすじ」などを考えましょう。

アイデア例

テーマ

謎解き

ジャンル

ミステリー

タイトル

透明人間の謎

登場人物・キャラクター

少年、透明人間

見る人に伝えたい映画の魅力（みりょく）

- ①先の読めない展開や複雑なトリックにハラハラ、ドキドキできる
- ②自分が主人公になったつもりで、一緒に謎を解きながら観てほしい

あらすじ

大正時代の東京。とある街で怪事件が続発する。誰もいないはずの部屋から金品が消えたり、夜中に不気味な足音が聞こえるが、姿は見えない。街の人々は恐れ「幽霊や妖怪の仕業だ」という噂が飛び交う。警察もお手上げ状態のとき、街に住む謎解き好きの少年が、古書店で「謎の失踪を遂げた科学者の研究日誌」を見つける。そこには、「人を透明にする薬」についての実験記録が書かれていた…。

見せ場

- ①少年が古書店で物語のキーアイテムとなる「科学者の研究日誌」を見つけるシーン
- ②少年が初めて不気味な洋館で透明人間と対峙するシーン

映画のテーマとジャンルを決めるヒント

同じジャンルであっても、扱うテーマがかわると描くイラストも変わってきます。

下の例を参考にして、自分の描きたいテーマやジャンルを決めましょう。



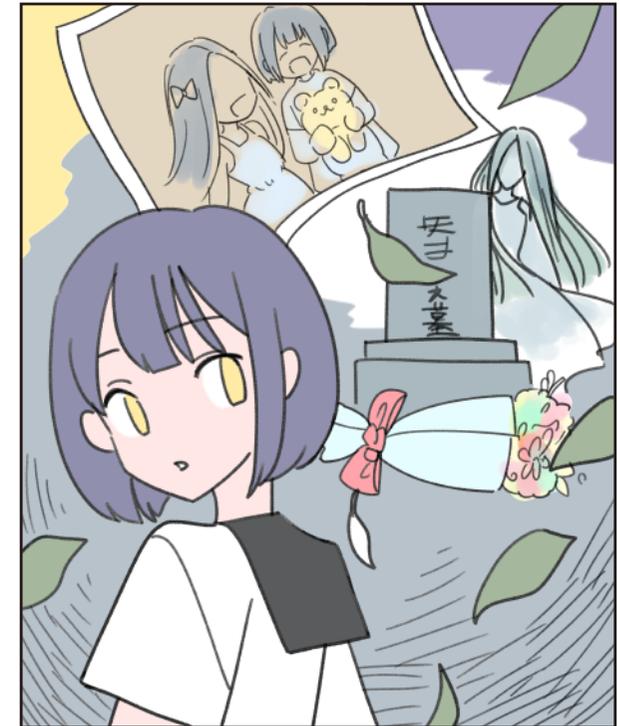
「友情」 × 「コメディ」

芸人を目指している男子Aと音楽活動をしている男子Bの友情ストーリー。AはBに芸人の相方になって欲しいが、BはAにバンドメンバーになって欲しい。そんな2人のドタバタすれ違いコメディ。



「お金」 × 「コメディ」

3億円の宝くじに当選した主人公。油断してお酒を飲み豪遊したところ、当たりくじを無くしてしまった！失われた記憶と3億円をめぐって繰り広げられるドキドキコメディ。



「友情」 × 「ホラー」

お母さんのお墓参りにやってきた主人公は、隣のお墓からずっとこちらを見ている幽霊の存在に気付く。お墓参りの帰りもずっとついてくる幽霊と主人公の、ちょっと怖いけど感動できる友情ストーリー。

STEP2 映画の魅力（みりょく）を伝えるデザインを考えよう！



映画の見せ場となる「少年が初めて不気味な洋館で透明人間と対峙するシーン」をベースに構成したアイデアです。



映画に関わる「謎」「大正時代」「不気味」「洋館」「透明人間」というキーワードを切り取り、コラージュのように組み合わせ構成したアイデアです。

STEP1の1ページ目のアイデアを見ながら、左の絵を見てみましょう。
同じ映画でも、切り取りたい場面によって、こんなふうに表現が変わってきます。例にならって、ラフを2案描いてみましょう。

ラフの段階で案を複数出して見比べることによって、最終的にイメージ通りのイラストに近づけやすくなります。

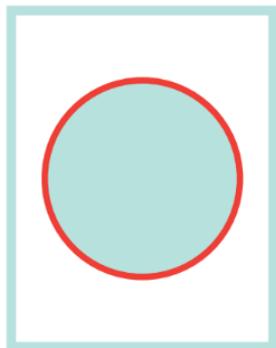


デザインのポイント① イラストのレイアウト -1

まずはイラストのレイアウトを考えていきます。
あくまでもイラストを魅力的に見せるための手段なので、「こうしなければならない」と難しく考える必要はありません。まずは自由にラフを描いてから、表現したいイメージに合わせてレイアウトを考えてみましょう。いくつか参考になる構図を例にあげます。

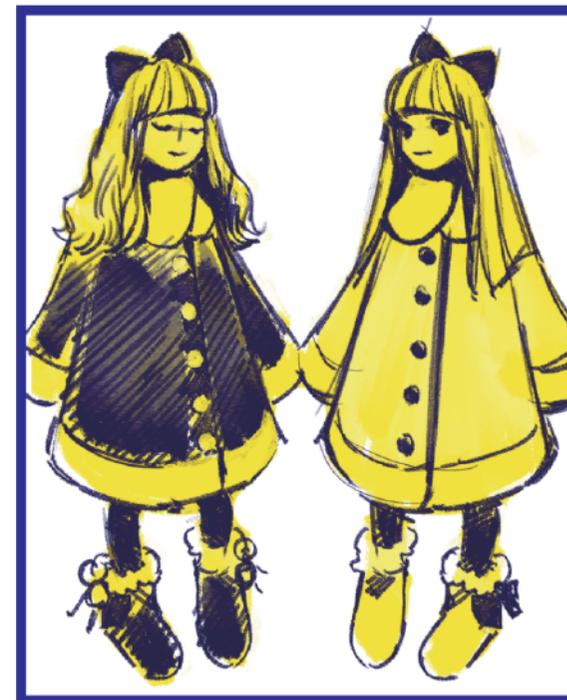
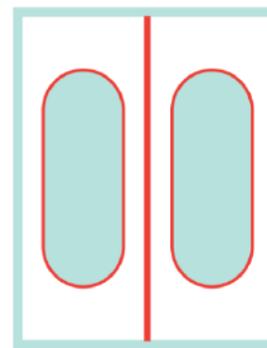
日の丸構図

画面の中央に見せたいものを配置する構図です。
イラストの主役をわかりやすく見せることができます。

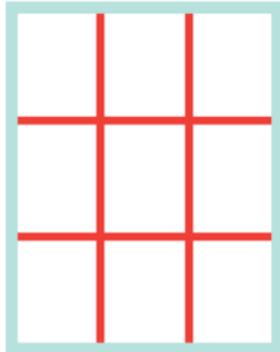


シンメトリー構図

左右や上下対称に
モチーフを配置する構図です。

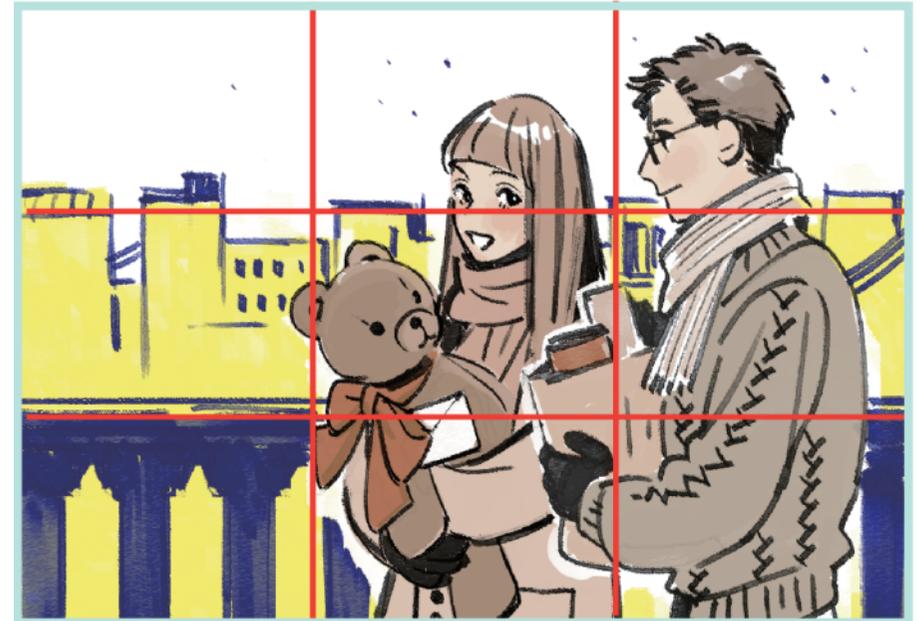
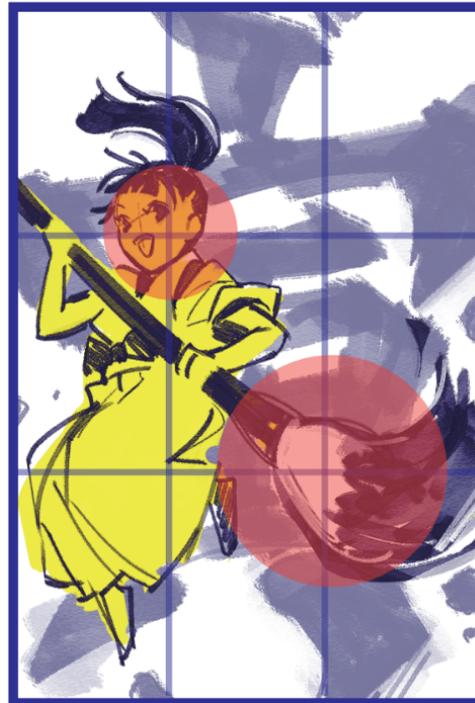


三分割構図

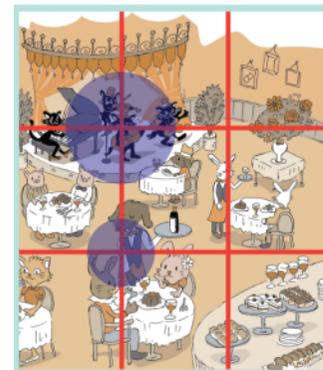


画面を縦・横それぞれに三分割にして、線の上や交差点にレイアウトするパターンです。

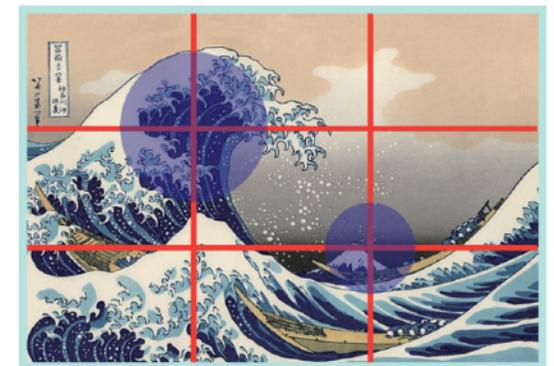
この交差点に見せ場があると、みやすく引き締まった画面を作ることができます。



背景やデザインを、この三分割のライン上に持ってくるのもバランスがよいです。

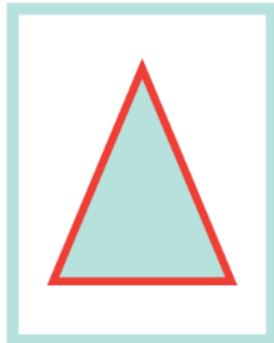


戸田ゆうか先生のイラスト



葛飾北斎の浮世絵「富嶽三十六景・神奈川沖浪裏」

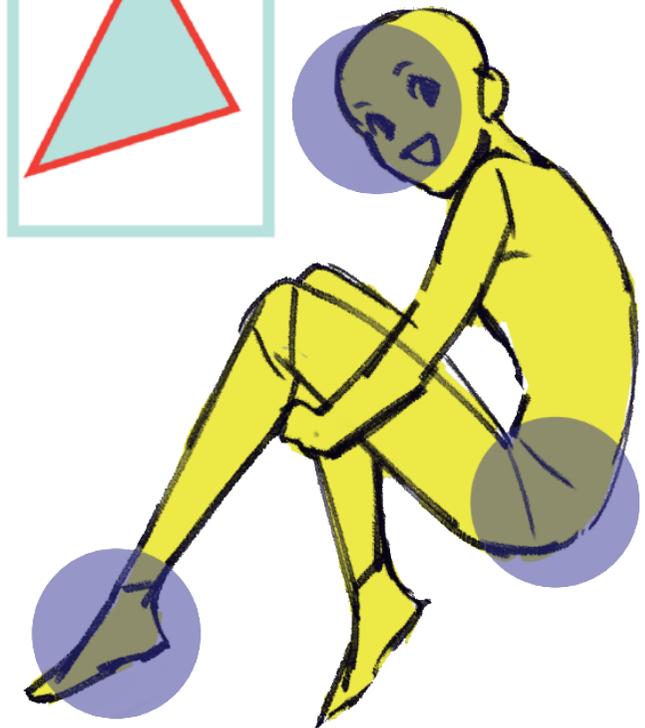
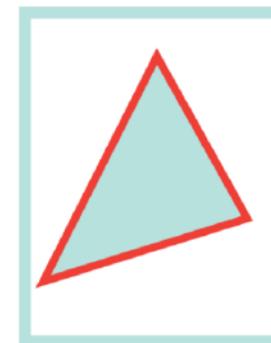
三角構図



モチーフを三角形に配置する構図です。
モチーフは1つでも、複数でも構成できます。



モチーフや人物を複数配置して三角形のバランスを作ることができます。



三角形の角をアンバランスに配置すると、動きのないポーズにも流れや動きをつけることができます。

デザインのポイント② 絵と文字の組み合わせアイデア

ポスターは絵と文字の組み合わせで成立します。

ラフを描くときに、絵だけでなく文字の位置も含めてレイアウトを考えてみましょう。



ロゴを上配置する



ロゴを中央に配置する



ロゴをたてに配置する



ロゴを下に配置する

ポスターにも完全な正解がありません。

また、お客さんの視点に立ってひとりで作ることも難しいので、レイアウトに悩んだらいくつか案を考えてみたり、クラスの先生や友達に相談してもよいでしょう。

ロゴデザインの工夫次第で、映画の世界観をより伝えやすくなります。自分が考えた映画のアイデアからキーワードをピックアップして、文字のデザインに上手く取り入れてみましょう。



透明人間の謎

このロゴは舞台や時代背景を考えて作ったデザインです。参考に、このデザインのポイントを4つ紹介します。

①大正時代チックなレタリング

この当時、ポスターは「手描き」で作られていました。手描きを出すためあえてこのロゴも手で描いたような歪みをつくっています。

②掠れやにじみの表現

当時の技術では印刷も、にじんだり掠れたりすることがあったため、その質感も表現しています。

③縦書きの日本語

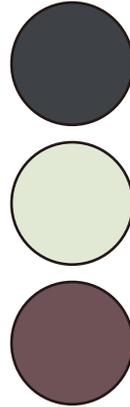
縦書きの文化圏は限られているので、和風を表現するときによく使われています。

④レトロな色使い

デザインのポイント④ 映画のイメージが伝わる配色



使った色



配色のバランス



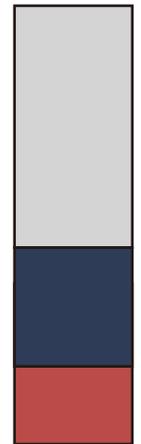
洋館で透明人間と対峙するシーンを不気味に表現するために、明度の低い色を多く使用し、差し色に怪しいイメージの鮮やかな色を加えています。



使った色



配色のバランス



「大正時代」と「ミステリー」の雰囲気を出すために、和風のイメージの色を組み合わせ、彩度と明度をおさえた色を中心にまとめています。

STEP3 映画の魅力が伝わるポスターを完成させよう!

STEP2 で考えたラフデザインをもとに、映画のポスターを仕上げていきましょう。

このステップでは、映画の世界観や場면을より引き立てる仕上げのヒントについて解説していきます。線画や下塗りができたら、デジタルイラストならではの効果をつけて、見た人をポスターに惹きつけるような臨場感を演出してみましょう。



ラフ



完成

- ①画面全体のノイズ
- ②セピアカラーのフィルタ
- ③歪み
- ④発光・埃



今回の作例では、古びた怪しい雰囲気演出するために、**ノイズやフィルタの効果**を取り入れているよ。

次のページから、作例を参考に、どのような演出を取り入れたかを解説していくので、一例として参考にしてみてくださいね。

フィルターや効果① 画面全体のノイズ

画面全体にノイズを加えることによって、フィルムで撮影したような雰囲気になり、古い映画の一場面のような効果を追加できます。



ノイズなし



ノイズあり

フィルターや効果② セピアカラーのフィルタ

画面全体にセピアカラーを重ねることによって、色褪せた風合いを出し、古さを演出することができます。



フィルタなし



フィルタあり

フィルターや効果③ 発光・埃（ほこり）

発光の効果を追加することによって、明暗さを強調し、視線をより光に惹きつけることができます。作例では古さを演出するため部屋に舞う埃を描いていますが、その埃も光に反射して見えるようにしています。



発光・埃なし



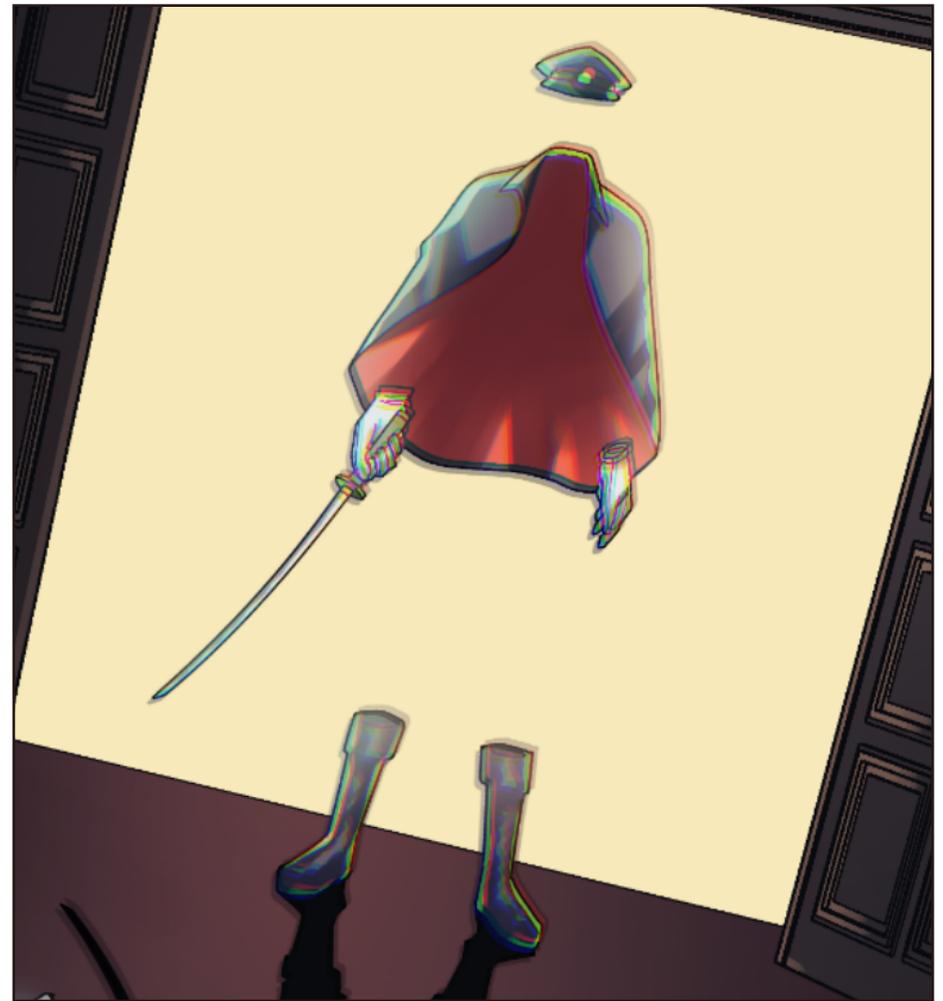
発光・埃あり

フィルターや効果④ 歪み（ゆがみ）

作例では、ずれや歪みの効果を追加することによって、「異質（いしつ）なものへの恐怖感」を演出しています。



歪みなし



歪みあり

完成したポスターを見て感想を言い合おう



ポスターが完成したら、先生や友達に見せて、感想を言い合いましょう。

ポスターを見てどんな映画か言い当てるゲームをして、自分の伝えたいことがきちんと他の人に伝わっているか、確かめてみるのも面白そうですね。

感想を聞くことができれば、その意見をこれからつくる作品にも活かしていきましょう！

色の組み合わせや、ロゴのデザインについて学ぶことがおもしろかった♪
ポスターを見る人に、自分が伝えたいことがちゃんと伝わっているか、感想を聞いて参考になった！



「ほんとうにこんな映画があったら...」と、映画を観る人のことも想像しながら描くことが楽しかったし、新しい体験だった！

